

令和7年度 第1回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和7年7月24日（木）午前9時30分～12時00分

場所：市民ふれあいプラザ コムコム 多目的ホール

【出席委員】

伊藤晴樹、大穂耕一郎、加藤雄大、木村加奈子、近藤大介、佐藤真弓、千田匡、成田保、
〔座長〕三浦栄一（五十音順、敬称略）

【欠席委員】

佐藤幸生、張了了、長崎久美子、中嶋俊彦、成田耕介、益田光（五十音順、敬称略）

【部長等（説明員）】

三沢聡総務部長、西根弘樹財務部長、佐藤義隆市民生活部長、鈴木雅昭健康福祉部長、
小松武志産業部長、高橋将樹文化スポーツ課長、長岐孝生建設部長、金澤誠教育次長、
松橋雅徳消防長

【事務局】

福嶋統総合政策課長、永坂洋男政策係長、菅原徳人主査

開会

【会議の概要】

0. 新委員の紹介
1. 座長あいさつ
2. 協議事項

事務局（菅原主査）説明

- ①会議資料の確認と会議の進め方について説明
- ②当日資料1「総合戦略・総合計画目標値達成状況」と当日資料2「北秋田市人口ビジョンの推計値との比較」について説明。

（1）第2期北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略、第2次北秋田市総合計画後期基本計画 効果検証シートについて

- ・効果検証シートについて、各部長等より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

《質疑応答》

- ・質疑は総合戦略と総合計画に区切って進めることとして総合戦略は戦略ごと、総合計画は基本理念ごとに議論を行った。

○総合戦略

「戦略1 産業振興による仕事づくり・稼ぐ地域づくり」

※検証シート No.1 ～ No.21

大穂委員） No. 13に関連した質問となる。アンテナショップとは少し趣旨が異なるが、イベント等へ出展する際に、市として補助を行っているか。また、市単独、あるいは他自治体と共同で、首都圏での物産展へ出展している実績はあるか。

産業部長） 物産展への参加に際しては、市として支援は行っているのですが、今後ご相談いただきたい。また、市単独で首都圏の物産展に出展することについては、コスト面などから単独実施は難しい。先ほどご説明した青山ファーマーズマーケットは、毎週土曜日に開催されており、今年は試行的に2回、市でブースを借り上げて、生産者の農家さんとともに農産物を出展している。

近藤委員） 同じく No. 13に関連した質問となる。青山ファーマーズマーケットは、首都圏でも浸透しているイベントであり、大山商店街のアンテナショップと比較しても、短期的な知名度向上の面では効果的だと考えている。こうしたイベントへのスポット参加の中で、市全体のPRを行う予定はしているか。

産業部長） 現時点で具体的には思案しているものではないが、青山ファーマーズマーケットでは、市がブースを借り上げ、生産者の農家の方々にも参加いただいている。その場を活用し、市全体のPRも兼ねて、ブース内での情報発信などに取り組んでいる。

木村委員） No. 15に関連した質問。御朱印巡りを目的とした観光導線の創出について。神社巡りを趣味とする層にとっては、来訪の動機づけとなる。また季節限定の御朱印などは、再訪のきっかけにもなり、お土産購入や経済的な波及効果も期待出来ると考えます。こうした観点から、市として積極的な働きかけが必要ではないか。

大穂委員） 補足だが、内陸線では鉄印、道の駅ではスタンプラリーを通年実施しているが、道の駅のスタンプについては、種類を増やしてPR等すれば来訪が増えるのではないか。

文化スポーツ課長） 元々関心がない層をいかに来訪につなげるかというご指摘についてだが、昨年度、伊勢堂岱遺跡とマタギの食文化にフォーカスした「偏愛ツアー」を実施した。縄文文化やマタギ文化が好きな方を対象に向けて、未公開の土器などを特別に公開するなど、非常に好評をいただいた。このように、特定の分野に強い関心を持つ層に向けたアプローチは、誘客の観点からも重要であると考えている。御朱印については、現在、青森・秋田・岩手の3県で縄文遺跡群を周遊するデジタルスタンプラリーを実施しており、こちらも来訪促進の一手として位置づけている。

大穂委員） No. 15に関連した質問だが、経営者が亡くなられた「ぶなホテル」の今後の展望について、現時点での状況を教えていただきたい。また、数年前から訪日外国人、特に台湾からの観光客が冬季期間、阿仁スキー場を多く訪れており、施設内のレストランが混雑している。団体客と一般客が集中する冬季期間は、いわゆるオーバーツーリズムと認識している。混雑緩和のため、週末に数台のキッチンカーを依頼しているものの、対応が追いついていないのが現状である。

文化スポーツ課長） ぶなホテルについては、現在、新たな事業者との交渉を進めている段階である。阿仁スキー場での昼食時の混雑については、即効的な解決策はないが、今年度は、オーバーツ

ーリズム対策として、旧阿仁中学校及び旧阿仁体育館の敷地を駐車場として活用する予定。そこから無料シャトルバスを運行することで、来場者の分散を図り、混雑の緩和につなげたいと考えている。

「戦略2 新たな人の流れをつくる移住・定住の促進」

※検証シート No. 22 ～ No. 26

・質疑等なし

「戦略3 結婚・出産・子育てをかなえる切れ目のない支援の推進」

※検証シート No. 27 ～ No. 37

・質疑等なし

「戦略4 住み続けたい、安心を築く地域社会の形成」

※検証シート No. 38 ～ No. 69

近藤委員） No. 39 について。自治会内での連絡手段について。最近、世代によってなじみのある連絡手段が異なることを実感している。例えば、子ども会ではLINEグループでやりとりする一方、自治会では従来どおり回覧板が主流となっており、家族間でも連絡事項が共有されず、情報が流れてしまっている状況が深刻だと感じる。こうした連絡手段の格差について、市として対策を講じていることはあるか。

木村委員） これに関して補足したい。回覧板だけでは家庭内でも情報の共有に隔りが出てしまい、自分の地区で何が行われているのかがわからないという声もある。連絡手段の多様化という観点から、SNSの活用や市公式LINEなどのツールも、もっと活用できるのではないか。

市民生活部長） ご指摘のとおり、回覧板だけでは情報が十分に伝わらないという課題がある。現在、市としては行事や防災等に関する情報を「防災ラジオ」や「市公式LINE」を通じて周知している。また、出前講座の開催などを通じて、市公式LINEの活用方法についても周知しているところである。自治会の再編や高齢化に伴い、活動が縮小している地域もあるなかで、相談があれば自治会間の連携支援などにも取り組んでいきたい。

総務部長） 自治会の力が以前に比べて弱まってきている現状は確かにある。ただ、回覧板には隣人とのつながりが感じられるという面もあり、一定の意味があるとも考えている。しかし、回覧板だけでは情報が十分に伝わらないという点についても理解している。地域ごとに限定した情報発信のあり方については、今後研究していきたい。なお、防災分野ではエリアごとに情報配信を行っており、今後の展開に活かしていきたいと考えている。

佐藤委員） No. 40 に関連するが、地域活動の周知について。現在は地域の方々に限定して行っているか。近年のケアマネジメントの考え方では、介護保険サービスだけで高齢者の生活全般を成り立たせるのは困難であり、地域での支え合いが重要であり、自治会などの組織

的な活動を通じて生活を支えるという視点が求められている。地域でどのような活動が行われているかという情報が共有されれば、我々ケアマネージャー側でも高齢者への働きかけがしやすくなると考えている。

市民生活部長) 現在、地域活動については、各自治会の代表者を通じて、市民へ周知している。

健康福祉部長) 今後は、地域の関係機関と連携しながら、必要な情報を提供できる体制について検討していきたい。

大穂委員) No. 61 について。一部の路線バスや乗合タクシーでは、利用者が限られており運行経費に対する費用対効果が課題となっている。一方で既存のスクールバスは一定のダイヤとルートで運行されており、地域によっては住民の移動ニーズと重なる部分もあると考える。このような実情を踏まえ、地域交通の維持と経費負担の軽減の両立を図る手段として、スクールバスの地域共用・利活用の可能性について、市としての見解を伺いたい。

総務部長) ご指摘のとおり、スクールバスに加えて、診療所の送迎バスもある。エリアごとにどのように移動手段を確保していくかという点が重要になると考えており、今後、全体のバランスを見ながら検討していきたい。

○総合計画

「基本理念 1 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり」

※検証シート No. 70 ～ No. 78

大穂委員) No. 74 について。がん検診の受診率について、数値が非常に低く感じるが、本当にこれほど低いのか。

健康福祉部長) 実際の受診率には、職域（事業所）で受診された方が含まれていないため、低く見える傾向がある。事業所から個別に受診情報を提供してもらえれば、より正確な受診率を把握できるが、現状では情報提供のハードルが高く、難しい状況となっている。

「基本理念 2 お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり」

※検証シート No. 79 ～ No. 90

・質疑等なし

「基本理念 3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむまちづくり」

※検証シート No. 91 ～ No. 100

木村委員) No. 94 に関連してイベントの運営について、実行委員会形式での開催を検討してみてはいかがか。住民参加による運営とすることで、地域の関心や主体性を高め、関連施策への波及効果も期待できるのではないか。

文化スポーツ課長) ご提案の実行委員会形式については、委員の皆様からご意見をいただきながら進めることで、これまでとは異なる視点でのイベント開催にもつながる可能性があると考えている。今後、前向きに検討していきたい。

「基本理念4 自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり」

※検証シート No. 101 ~ No. 115

・質疑等なし

「基本理念5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり」

※検証シート No. 116 ~ No. 135

・質疑等なし

その他

木村委員) 積水ハウスで、道の駅内の敷地で宿泊施設の開発を行うプロジェクトを進めており、現在までに8道県で開業または開業予定となっている。こうした取り組みは、当市の宿泊施設に関する課題解決にもつながる可能性があると考えているが、見解をお聞きしたい。

加藤委員) 関連してお聞きしたい。北秋田市には多くの観光資源等があるにもかかわらず、「宿がない」といった声を多く耳にする。現在、宿泊施設の誘致について、どのような取り組みや進捗状況があるかお聞きしたい。

産業部長) 積水ハウスのプロジェクトについては、過去に数回アプローチした経緯がある。他地域の道の駅における宿泊施設の稼働率なども参考にしながら、今後、誘致が可能であれば改めて声をかけていきたいと考えている。現在、市として宿泊施設に関する市場調査を進めており、その結果を踏まえて、企業へのアプローチを検討していきたい。

文化スポーツ課長) 道の駅内での宿泊施設については、これまで存じ上げていなかった。今後、道の駅検討委員会等の場において、こうした提案についても検討していきたい。

伊藤委員) 近年、地域運営組織(RMO)が注目されているが、自治会の高齢化により運営の負担が大きくなっているほか、地域防災の観点から将来的に不安があると感じている。全国的にも、また県内でも地域運営組織の事例があるが、北秋田市ではどの程度こうした組織があるのかお聞きしたい。

市民生活部長) 地域運営組織について、他自治体の事例も把握しているが、北秋田市内の状況については改めて整理し、次回の会議で回答させていただきたい。

大穂委員) 要望となるが、国道105号で阿仁スキー場へ曲がる付近にある補助信号が、木の枝により見えづらくなっていた。このような場合、どこに問い合わせをすればよいか。

建設部長）道路の管轄は県になるが、信号に関する事項については公安の所管になるかと思う。
いずれにしても、県及び公安の両方に確認し、要望については市からも伝えておく。

（２）その他

- ・事務局より次回日程及び内容について説明をした。

閉会